

【はじめに】

この資料は、令和2年度ポーターズ・ゼミ（主催：宮崎県選挙管理委員会、明るい選挙宮崎県推進協議会、宮崎大学）の様子を紹介するものです。

第2回ゼミでは、宮崎日日新聞の論説委員長で明るい選挙宮崎県推進協会副会長の末崎和彦氏と、同紙の県政記者である坂元穂高氏からお話を伺いました。

令和2年度ポーターズ・ゼミ概要（第2回）

テーマ：「新聞から政治を読み解く」

講師：宮崎日日新聞 論説委員長 末崎 和彦 氏
同 記者 坂元 穂高 氏

日時：2020（令和2）年9月12日（土）

場所：宮崎県庁 附属棟3階 301号室

参加者：9名（高校生、大学生、20代の社会人）

1 末崎論説委員長の話

(1) はじめに

若者の投票率が低いと言われますが、若者の皆さんに政治への関心を持ってもらうことが大切です。政治の情報には、テレビ、新聞、インターネットなどを通じて触れると思いますが、第2回ゼミでは、前半で、私から新聞の読み方についてお話をした上で、後半では、実際に現場で取材に携わる坂元記者の話聞いてもらいます。



(2) 内閣総大臣の辞任表明のニュース

ちょうど今、テレビ、新聞、インターネット上では、内閣総理大臣（以下、「首相」という。）の辞任表明とその後の展開がニュースとなっています。来週には、与党代表を決める選挙があり、その後、国会で首相の指名を経て、新しい内閣が誕生する見込みです。与党の代表選挙は、私たちの投票で決める選挙ではありませんが、現在、与党が衆議院の過半数の議席を占めており、事実上、首相を選ぶ選挙となります。

また、衆議院議員の任期満了も来年10月に控え総選挙が行われる予定ですので、今日は、政治に関心を持ってもらうきっかけとして、この首相の辞任表明を題材に、新聞の読み方を学びます。

(3) 首相辞任表明翌日の新聞を読み比べる

国内には、様々な新聞社があります。「宮崎日日新聞」は、県内全域をカバーする「地方紙」で、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞などは「全国紙」、日本経済新聞などは「専門紙」と呼ばれます。

新聞は、毎日、各紙ごとに内容が異なりますが、首相辞任のような大きな出来事があると、各社が特集を組みます。そこで、令和2年8月28日（金）の首相の辞任表明を受けて、その翌日8月29日（土）に各紙がどのようにこの出来事を取り上げたかを読み比べ、各紙のニュースの伝え方や論評の仕方の違いを見ていきましょう。

まず、新聞の最初にある「一面」から「見出し」を比べます。「見出し」は、記事を要約したものです。まず、見出しのうち、一番サイズが大きい「大見出し」を比べます。

宮崎日日新聞	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞
〇〇首相 退陣表明	〇〇首相 辞任表明	〇〇首相 辞任表明	〇〇首相 辞任表明

「退陣」「辞任」と表現に多少違いはありますが、各紙同じ内容です。一面記事は、論評を挟まず事実が淡々と書かれますので、各紙同じような見出しになっています。

次に、「大見出し」よりサイズが小さい「小見出し」です。

宮崎日日新聞	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞
体調悪化で継続困難 自民総裁選 来月15日軸	「持病再発、負託に応えられない」新首相、来月に選出	潰瘍性大腸炎 再発「国民におわび」	コロナ下持病悪化 公認〇・□□・△△氏の名

各紙とも、読者の関心が最も高い辞任の原因に触れ、次に関心の高い後継者選びを挙げており、大きな違いは出ていません。

次に、「政治面」と「社会面」を見ていきます。政治面は、一般に2～3面にあり、社会面は、4コマ漫画などが掲載される後ろのページの見開きにあります。

宮崎日日新聞	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞
《政治面》 ・最長政権 突然の幕 《社会面》 ・県内 驚き広がる ・再び持病 無念さ	《政治面》 ・7年8カ月 残った課題 健康問題 再び突然の幕 ・株価と雇用改善 財政は悪化 ・安保を転換 拉致問題は未解決 ・コロナ政治判断で混乱 《社会面》 ・〇〇・△△・□□疑惑晴れぬまま	《政治面》 ・最長更新直後に判断 ・〇〇〇〇〇道半ば ・景気の拡大 実感乏しく ・外交 課題山積のまま 《社会面》 ・疑惑と難題残し 任期途中で再び	《政治面》 ・コロナ新対策 節目 ・難病再び 突然の幕 ・「健康管理を反省」 ・「投げ出し」回避 懸命 《社会面》 ・拉致・五輪 道半ば ・急な決断 戸惑い ・「残念だ」「ゆっくりして」 ・組織委幹部「無念だろう」

これを見ると各紙の違いが分かります。宮崎日日新聞は、社会面の見開きのうち、一社面と言われる右ページで東京の話、二社面と言われる左ページで県内の人々の受け止めを取り上げ、地元宮崎の新聞ならではの構成です。朝日新聞は、政治面で、未解決に終わった課題を挙げ「悪化」「混乱」といった厳しい言葉が並び、社会面も、国会で追及された疑惑を挙げています。毎日新聞も、政治面・社会面とも厳しい表現の言葉が並

び、一見、朝日新聞と同じようですが、社会面の小見出しには「**辺野古**」「**沖縄**」といった言葉が並び、政権の未解決の課題に沖縄問題を挙げるなど朝日新聞とは切り口が異なります。読売新聞は、政治面では、事実を淡々と並べています。現首相は、平成18(2006)年に初めて首相になった際、病気が原因で政権が短命に終わり「投げ出し」との批判を受けました。そこで今回は同様の事態を回避するための辞任だったことを挙げています。社会面では、地元や東京五輪の関係者の声に触れ、「道半ば」「残念」「無念」といった言葉が並んでおり、首相の気持ちを代弁するかのようです。朝日新聞や毎日新聞と比べ、読売新聞は穏やかな書きぶりと言えます。各社とも、見出し記事の中身は概ね同様の内容です。

このように、「見出し」を見るだけでも、各紙が同じ出来事を異なる角度から伝えているのが分かります。これは、テレビのニュース番組などでも同様です。

なお、各紙の記事で「これが一番・絶対」というものがあるわけではありません。色々な記事を読み「自分はどう思うのか」を考えてみてください。

(4) 社説を読み比べる

次に、各紙の「社説」の「見出し」を読み比べます。「社説」は、政治や社会の様々な出来事に対して、新聞社としての主張（意見・見解）を述べるものです。

宮崎日日新聞	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞
・〇〇首相退陣表明 ・「一強」生んだひずみ総括を	・〇〇政治の弊害精算を	・行き詰った末の幕引き	・危機対処へ政治空白避ける

宮崎日日新聞は、長期政権の中で特に後半に指摘されたいくつかの疑惑を念頭に、次の政治に進むには「総括」が必要だと書いています。朝日新聞は、「弊害」の「精算」が必要とより厳しい表現です。毎日新聞は、今回、仮に病気での辞任表明とならなくとも、政権は様々な課題や疑惑を抱えて末期だったとの声を挙げ、小見出しで「**迷走が続いたコロナ対応**」と若干厳しい表現です。読売新聞は、大見出しでは政権への是非に触れていませんが、小見出しでは「**長期政権の功績大きい**」と評価しています。社説は、各紙で見出しがだいぶ異なります。

このように各紙で見出しがだいぶ異なります。現政権は、7年8か月の長期政権の中、経済政策などで評価されている反面、解決が不十分な課題やいくつかの疑惑も指摘されています。どの部分に光を当てるのかによって、各紙の見方に違いが出ています。

(5) 様々なものの見方に触れ、そして自分なりに考える

皆さんも、インターネット、新聞、テレビ番組などの中の何か1つだけを情報源にしていると、そこで言われていることを「そういうものなのかな」と思うだけになり、その見方に疑問を持つことはありません。

しかし、全く逆の視点や異なる立場で書かれているものを見れば、「そのような見方もあるのか」と分かります。今日のゼミで見たように、どの新聞記事も取材で得られた事実を元に書かれているものですが、見方によって記事の内容が異なっていました。

また、新聞社をはじめとするマスコミも人間の集まりです。取材対象である政治家との距離が近すぎるあまり、時に本来報道すべきことが見過ごされてしまうなど、誤ってしまう場合もあります。

ぜひ皆さんには、色々なものを見て、読むことを通して、一つの意見でなく、色々な意見に触れ、咀嚼してください。そして、様々な意見の中で、どれがより真実を捉えているかを考えて、自分なりの意見を持ち、投票に行ってもらえればと思います。

(6) コロナ禍の中で考える政治

現在、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響で、高校生であれば、学校の休校による授業の遅れや受験への影響に対する不安、大学生であれば、経済活動の低下や企業の経営悪化による就職への影響への不安などを感じているのではないのでしょうか。その意味では、否応なく政治の存在を身近に感じているかもしれません。

コロナ対策には政治が密接に関わっています。例えば、国レベルでは、感染拡大防止のため都市を封鎖し、封鎖した地域への外部の人間の出入りを制限した国もあれば、日本のように休業や自粛の要請などの比較的穏やかな手法をとった国もあります。国内を見ても、都道府県や市町村ごとに、知事や市町村長の判断でコロナ対策は大きく異なりました。平常時には、政治に対しあまり関心が持てないかもしれませんが、このような時だからこそ、自分なりに政治や自ら投票することの意義を考えて欲しいと思います。

2 坂元記者の話

(1) はじめに

私は、県政記者として、県庁本館の2階にある県政記者室に詰めながら、主に宮崎県政の取材をしています。選挙になると、県知事や県議会議員の選挙だけでなく、衆議院や参議院の議員の選挙も取材します。

宮崎日日新聞社には社内に、総務局、編集局、読者局などの組織が置かれ、このうち編集局の中に報道部、経済部、運動部、生活文化部などがあります。報道部には、県政担当のほか、事件・事故を取材する県警担当、宮崎市政を取材する市政担当、街の話題などを取材する社会担当がいます。他の地方紙・全国紙の組織も似たような構成です。



(2) 与党の代表選挙を巡る様々な記事

ここ数日、新聞やテレビでは、首相の辞任表明を踏まえた与党の代表選挙が連日のよ

うに報道されています。与党の代表選挙は、政党の代表を国会議員や党員などの投票で選ぶ政党内部の選挙であり、私たちに選挙権がある国政選挙などとは異なります。

しかし、今回の代表選挙がこれだけ注目を集めるのは、与党が衆議院で過半数の議席を占める中では、今回の選挙が、事実上、首相を決める重要な意味を持つからです。

今回の代表選挙では、当初、投票の方法に関心が集まりました。現与党では、内部ルールによって、代表選出について次のような2つの方法が定められています。

1 番目の方法	2 番目の方法
① 国会議員の票 ② 党員や党友（党の支援者）の票 ※②を一定のルールで①と同数となるように配分	① 国会議員の票 ② 各都道府県地方組織代表 3 名の票

このうち、2番目の方法は、今回のように、任期途中で代表交代した時のような変則的な場合に認められているものです。今回の代表選挙では、結果的に2番目の方法となりましたが、それに対する県内与党関係者の声を取り上げたのか「**党員党友投票見送り**」（令和2年8月29日付け宮崎日日新聞）という記事です。今回の選挙が、事実上、首相を決定する重要なものであるのに、2番目の方法では、地方の声が十分に反映されないのではないかという意見です。最終的に、県内では与党関係者1万2千人が投票した結果を踏まえ、宮崎県組織の3票を各代表候補者に割り振ることとなりました。このように人々の声を届けるのも記者の役割です。

また、今回、なぜ2番目の方法となったのかをその背景を読み解いたのが「**党員投票で簡略方式**」（令和2年9月2日付け宮崎日日新聞）という記事です。今回、2番目の方法が採用された背景に、地方に強いと言われた代表候補者が選挙で有利になるのを避けたいという与党の執行部の考えがあったのではないかと分析しています。

(3) 選挙から政治に関心を持つ方法

選挙や政治に関する記事の面白い読み方を紹介しましょう。国政選挙となると、選挙のテレビの開票速報番組や新聞の特集記事が組まれます。その中で、誰が当選したのかという情報だけでなく、選挙の前後で各政党の議席数がどう変化したのかに着目してみましょう。その理由を考えることで、例えば、有権者が各政党のどのような点に不満を持っていたから票が流れたのかかもしれないという見方をすることができます。

また、新しい内閣が発足した際の大臣の顔ぶれや与野党の政党内の人事に関する記事を見る時は、誰が選ばれたのかだけでなく、その人たちが、政党内でどのようなグループに属しているかに注目してみてください。それを前回の内閣や人事と比較すると、政党内でどのような人たちが勢力を伸ばしているのかを垣間見ることができます。このような見方は与党に限りません。現在、野党でも野党第1党と第2党の合流が話題になっていますが、どちらの党から代表や役員が選出されるのかといったバランスや、野党が政権与党だった当時のグループなどに遡ってみると色々な発見があるかもしれません。

選挙は、国や地方自治体の代表を選ぶ手続きであると同時に、議席や票の奪い合いという側面もあります。その数字の変化に着目し、力関係の変化を読み取り、背景にある

要因を考えることで、政治に関心を持つきっかけになるのではないかと思います。

(4) 新聞は分かりやすい

皆さんは、新聞というと、何か専門的で難しいことが書かれているような印象を受けるかもしれません。私は、現在、県政記者をしています。大学では機械工学を学んでいました。そのため、大学で政治、経済、国際関係などを特に学んだというわけではありません。

実は、今回の与党の代表選挙を取材する中で「ドント方式」という言葉に出会いました。皆さんは、社会科の授業で聞いたことがあるでしょうか。この言葉に触れたとき、社内では、このドント方式とは何か上手に説明できる人がいませんでした。そこで、県選挙管理委員会から資料をもらい、表やQ&A（一問一答）方式でまとめた解説記事「**得票正数で割り配分 県連 1 万 2000 人対象に投票 ドント方式 Q & A**」（令和 2 年 9 月 9 日付け宮崎日日新聞）を書きました。

新聞記事は、私のような記者が、読者と比較的近い感覚で取材し書いています。なるべく分かりやすくなるよう工夫していますので、一見難しそうに見えても、読んでみれば、学校の教科書などよりも実用的なことが書いてあったりします。社会の出来事で「あれ？」と疑問に思うことがあれば、ぜひ新聞を読み込んでみてください。

(5) ある首長選挙の取材から

最後に私が支局長として取材した、ある市町村の長の選挙（以下「首長選挙」という。）の記事を紹介しましょう。

選挙は、本来、候補者同士が政策を競い合うもので、新聞も各候補の公約や主張を公平に並べ読者に提供します。有権者には、それらを見て、自分たちの国や地域がどうあるべきかを考えて投票して欲しいと考えています。

しかし、実際の選挙を見ると、候補者に対する好き嫌い、地域の中で属しているグループなどにより誰に投票するかを決めてしまう場合があり、歴史的にそのような傾向が強い地域もあります。そのような決め方の、すべてが悪いというわけではありませんが、やはり、各候補者の意見をしっかりと聞いて判断することが大切です。

この首長選挙は、選挙権年齢を 18 歳以上に引き下げる改正公職選挙法の改正が公布された後に行われ、ちょうど、翌年の国政選挙で年齢引下げの実施が予定されている時期でした。当時は、実社会にも出ていない年齢でどのように投票したらよいのだろうかという戸惑いの声が若者から多く聞かれた時期です。主権者教育も始まった頃で、地元高校では模擬投票も行われ関心も高まってきました。そこで、「**政策論戦へ 10 代関心**」（平成 27 年 9 月 4 日付け宮崎日日新聞）という記事で、当時は選挙権がなかった 10 代の若者にも取材し、自分に選挙権があれば「政策の中身で判断したい」という声を取り上げました。

(6) 自ら積極的に情報を仕入れて投票へ

選挙では、昨日まで立候補を検討していた人が断念し、まったく名前が挙がっていなかった人が立候補を表明するなど、刻一刻と情勢が変化します。私たち新聞記者も、最前線で取材し、今、何が起きているのか、どういう状況なのかを記事にしますので、皆さんも選挙の際には、新聞やテレビから積極的に情報を仕入れて下さい。

そして、もし記事を読んでいて「あれ？」と疑問に思う点、共感できない点があれば他紙と見比べてみてください。宮崎日日新聞は、地元紙として地元の情報は全国紙に比べ充実していますが、他紙を読むと別の視点を提供してくれる場合があるかもしれません。

大学入試でセンター試験が廃止になるのも、コロナ対策で給付金が給付されるのも、政治が決定したことです。私たちは、政治で決まったことの中で生きているのという意識をもち、できれば毎日、新聞を読んで、世の中で起こっていることを楽しく知ってください。私たちも頑張りますので、新聞を隅々まで読んでもらえるとうれしいです。

3 質疑応答

《受講生 A さん》

私は、県外から宮崎の大学に進学しました。本県では、以前、芸能人から知事になった方がおり、全国的に注目を集めたと聞いています。私は、大学で劇場型政治についても学んだのですが、当時の功罪などを含め感想を聞かせてください。



《末崎委員長》

メディアの扱いに慣れていて、全国に対し高い発信力がありました。観光や県産品の生産流通に携わる方の中には、今でも感謝されている方がおられます。

その一方で、自らに質問が出た際の対応などで気になる点も見られました。

もちろん、政治家がメディアに対して厳しい対応をするのはやむを得ない部分はあるのですが、近年、政治家の中には、一般の人からの意見に対しても批判的な対応をする方も見受けられます。

トップに立つ人間には、周囲からは必ずしも評価を受けないこと、批判を受けることは沢山あります。政治家には、自分の意に沿わない意見でも、受け止める「度量」を持って欲しいと考えます。

《坂元記者》

当時、県庁が観光名所となるなど、宮崎の知名度を上げることに貢献されたのではないかと思います。

私は、まだ駆け出しの記者で、深く踏み込んだ取材をしていませんでしたが、先輩記者から、マスコミの扱いが上手い相手だからといって、そこに惑わされないようにと言われたのを覚えています。メディアから注目を集め人々の人気が高い相手だからと言っても、その人気になどに怯んで質問するのを躊躇ってしまっは取材相手のペースにはまってしまう。メディアとしてのしっかりとしたポリシーを持ち、良いことはよい、悪いことは悪いという是々非々で質問をする。そして、在京メディアなど大組織の中に埋もれることなく、地元の声や地元の人間でしか分からない課題など、地元紙でしか伝えられない質問をぶつけていくことの大切さを先輩記者から学びました。

【この資料について】

この資料では、講師や受講生の発言を読みやすくなるよう適宜加工しています。
また、この資料を、主権者教育・選挙啓発の目的以外で使用することは、ご遠慮ください。